

工事請負約款第25条第3項  
(インフレスライド条項) 運用マニュアル (暫定版)

平成26年2月

福井県

はじめに

本資料は、福井県工事請負約款（以下「約款」という。）第25条第3項のインフレスライド条項について、「賃金等の変動に対する工事請負約款第25条第3項の運用について」（以下「運用通知」という。）に関するスライド額の算定方法や発注者及び受注者間における協議等についての運用の考え方を整理したものである。

本資料において、出来形数量の確認や残工事量の算出等において疑義が生じた場合は、土木管理課と必要に応じ相談等を行い、円滑な執行に努めてください。

## 1. 適用対象工事

<p>(1) 約款第25条第3項の請求は、2. (3)に定める残工期が2. (2)に定める基準日から2ヶ月以上あること。          なお、工期内に賃金水準（設計労務単価）の変更がなされた後、受注者の責によらない工期延長により、2. (3)に定める残工期が2. (2)に定める基準日から2ヶ月以上となる場合には、その時点において請求ができるものとする。</p> <p>(2) 発注者及び受注者によるスライドの適用対象工事の確認時期は、賃金水準（設計労務単価）の変更がなされた時とする。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

項目	全体スライド (約款第25条第1項 および第4項)	単品スライド (約款第25条第2項)	インフレスライド (約款第25条第3項)
適用対象工事	工期が12ヶ月を超える工事 ただし、基準日以降、残工期が2ヶ月以上ある工事 (比較的大規模な長期工事)	すべての工事 (運用通知日時点で継続中の工事および新規契約工事)	すべての工事 ただし、基準日以降、残工期が2ヶ月以上ある工事 (運用通知日時点で継続中の工事および新規契約工事)
請負額変更の方法	対象	請負契約締結の日から、12ヶ月経過した基準日以降の残工事量に対する資材、労務単価等	部分払いを行った出来形部分を除く全ての資材 (鋼材類、燃料油類、アスファルト、生コン等主要な工事材料)
	受発注者の負担	残工事費の1.5%	運用通知に基づく賃金水準の変更がなされた日以降の工事量に対する資材、労務単価等
再スライド	再スライド	対象工事費の1.0% (ただし、全体スライドまたはインフレスライドと併用の場合、全体スライドまたはインフレスライド適用期間における負担はなし)	残工事費の1.0% (29条「天災不可抗力条項」に準拠し、建設業者の経営上最小限度必要な利益まで損なわないよう定められた「1%」を採用)
	再スライド	可能 (全体スライドまたはインフレスライド適用後、12ヶ月経過後に適用可能)	なし (部分払いを行った出来形部分を除いた工期内全ての資材を対象に、精算変更契約後にスライド額を算出するため、再スライドの必要がない)
			可能 (運用通知に基づく賃金水準の変更がなされる都度、適用可能)

## 2. 請求日および基準日等について

請求日および基準日等の定義は、以下のとおりとする。

- (1) 請求日：スライド変更の可能性があるため、発注者又は受注者が請負代金額の変更の協議（以下「スライド協議」という。）を請求した日とする。
- (2) 基準日：請求があった日から起算して、14日以内で発注者と受注者とが協議して定める日とし、請求日とすることを基本とする。
- (3) 残工期：基準日以降の工事期間とする。

### ・ 請求日について

請求に際しては、残工事の工期が基準日（請求日とすることを基本とする。請求日から14日以内の範囲で定めることも可とする。）から2ヶ月以上必要であることに留意すること。

なお、賃金水準が変更された日以降に請求が可能となり、請求日の遡りは認めないこととする。

### ・ 基準日について

発注者と受注者とが協議して定める基準日は、請求日を基本とするが、これにより難しい場合は、請求日から14日以内の範囲で定める。

### ・ 残工期について

残工期については、基準日における契約工期の残工事期間を基本とする。

なお、基準日までに変更契約を行っていない場合でも、先行指示等により工期延期が明らかな場合には、その工期延期期間を考慮することができるものとする。

ただし、繰越工事等で議会承認を必要とする場合は、工期延長後において、残工期が2ヶ月以上ある場合に限る。この場合においては、工期延長契約日以降に請求できるものとする。

### 3. スライドの請求

発注者または受注者からのスライド協議の請求は、書面により行うこととし、その期限は直近の賃金水準の変更から、次の賃金水準の変更がなされるまでとする。

- ・スライド対象の確認

スライド判定にあたっては、設計変更に伴う変更契約を行った上で、出来高を確認し、変動前と変動後残工事請負代金額により判定することを基本とする。

- ・スライド協議の請求について

発注者または受注者からのスライド協議の請求は、書面（別紙様式 1-1 または 1-2）により行うこととする。

また、基準日設定後に新たに賃金水準が変更され、かつ、残工事の工期が新たな基準日から 2 ヶ月以上ある場合には、その都度スライド協議の請求をすることができる。

なお、直近の賃金水準の変更から次の賃金水準の変更の間における発注者又は受注者からのスライド協議の請求は、1 回を基本とする。

- ・スライド額協議開始日について

発注者は、受注者の意見を聴いてスライド額協議開始日を定め、請求日から 7 日以内に受注者に書面（別紙様式 2）により通知する。

- ・実施フローについて

別紙 1 「インフレスライド条項 実施フロー」を参照すること

#### 4. 請負代金額の変更

- (1) 賃金等の変動による請負代金額の変更額（以下「スライド額」という。）は、当該工事に係る変動額のうち請負代金額から基準日における出来形部分に相應する請負代金額を控除した額の100分の1に相当する金額を超える額とする。
- (2) 増額スライド額については、次式により行う。  
$$S_{\text{増}} = [P_2 - P_1 - (P_1 \times 1/100)]$$
  
この式において、S増、P1およびP2は、それぞれ次の額を表すものとする、  
S増：増額スライド額  
P1：請負代金額から基準日における出来形部分に相應する請負代金額を控除した額  
P2：変動後(基準日)の賃金または物価を基礎として算出したP1に相当する額  
( $P = \sum (\alpha \times Z)$ 、 $\alpha$ ：請負率、Z：官積算額)
- (3) 減額スライド額については、次式により行う。  
$$S_{\text{減}} = [P_2 - P_1 + (P_1 \times 1/100)]$$
  
この式において、S減、P1およびP2は、それぞれ次の額を表すものとする、  
S減：減額スライド額  
P1：請負代金額から基準日における出来形部分に相應する請負代金額を控除した額  
P2：変動後(基準日)の賃金または物価を基礎として算出したP1に相当する額  
( $P = \sum (\alpha \times Z)$ 、 $\alpha$ ：請負率、Z：官積算額)
- (4) スライド額は、労務単価、材料単価、機械器具損料ならびにこれらに伴う共通仮設費、現場管理費および一般管理費等の変更について行われるものであり、歩掛の変更については考慮するものではない。

##### ・ 受注者の負担割合

受注者の負担割合については、契約書第29条の「不可抗力による損害」に準拠し、建設業者の経営上最小限度必要な利益まで損なわないよう定められた「100分の1」としている。

##### ・ 基準日における特別調査又は見積価格採用単価について

再調査や再見積に多大な労力又は日数を必要とする場合には、当初積算時の類似単価の物価変動率により算定することができる。ただし、当該材料等の工事費全体に占める割合が大きい場合は、別途考慮する。

##### ・ 複数回スライドを行う場合について

スライド請求を複数回行う場合におけるスライド額の算出も上記に基づき同様に実施するものとする。なお、その場合基準日における請負代金額には、それまでに実施したスライド額を含むものとする。

## 5. 出来高数量の確認

- (1) 基準日における残工事量を算定するために行う出来形数量の確認は、数量総括表に対応して出来高確認を行うものとする。
- (2) 現場搬入材料については、認定したものは出来形数量として取り扱うこと。また、下記の材料等についても出来形数量として取り扱うものとする。
  - ・工場製作品については、工場での確認またはミルシート等で在庫確保が証明できる材料は出来形数量として取り扱う。
  - ・基準日以前に配置済みの現地据付型の建設機械および仮設材料等（架設用クレーン、仮設鋼材など）も、出来形の対象とする。ただし、基準日以降の賃料等については、スライド対象とする。
- (3) 数量総括表で一式明示した仮設工についても出来形数量の対象とできる。
- (4) 出来形数量の計上方法については、発注者側に換算数量がない場合は、受注者側の当該工種に対する構成比率により出来形数量を算出してもよい。
- (5) 受注者の責めに帰すべき事由により遅延していると認められる工事量は、増額スライドの場合は、出来形部分に含めるものとし、減額スライドの場合は、出来形部分に含めないものとする。
- (6) 基準日までに変更契約を行っていないが先行指示されている設計量については、スライドの対象とすることができる。

### ・ 出来形数量等の確認方法について

基準日における工事の出来形数量の確認については、本マニュアル 5. に基づき実施することを基本とする。

なお、本県の執行にあたっては、当面、受注者に「工事出来高内訳書」（または「実施工程表付き工事履行報告書」）の提出を求め、これにより、数量総括表に対応した出来高を確認できることとする。

### ・ 「工事出来高内訳書」による出来高の確認

「工事出来高内訳書」に記載された出来高数量により、数量総括表に対応した出来高数量を確認する。

### ・ （監督職員が認めた場合に限り）「実施工程表付き工事履行報告書」による出来高の確認

次式により数量総括表に対応した出来高を算出する。

（ただし、実施工程表は、基準日までに作成されたものとする。）。

出来形数量 = 基準日における設計数量 × （基準日における実施済工程工期 / 実施工程工期）

本通達に基づくスライド請求を複数回行う場合、2回目以降の基準日における出来形数量の確認方法は、1回目の基準日における確認方法と原則同じ方法によることとする。

## 6. 物価指数

発注者は、積算に使用する単価を用いた変動率を物価指数とすることを基本とする。なお、受注者の協議資料等に基づき双方で合意した場合は別途の物価指数を用いることができる。

### ・ 積算に使用する単価について

変動後の価格を算定する際に用いる材料単価等については、発注者が積算に使用している物価資料等の基準日における価格を基礎とする。

### ・ 基準日における特別調査または見積価格採用単価について

再調査や再見積に多大な労力または日数を必要とする場合には、当初積算時の類似単価の物価変動率により算定することができる。ただし、当該材料等の工事費全体に占める割合が大きい場合は、別途考慮する。

## 7. 変更契約の時期

スライド額に係る契約変更は、精算変更時点で行うことができる。

### ・精算変更時で行う場合

スライド額に係る契約変更を精算変更時点で行う場合は、スライド基準日における出来形数量を確認し、残工事量を受発注者間で確認すること。

## 8. 全体スライドおよび単品スライド条項の併用

- (1) 約款第25条第1項に規定する全体スライド条項に基づく請負代金額の変更を実施した後であっても、本通達によるスライドを請求することができる。
- (2) 本通達に基づき請負代金額の変更を実施した後であっても、約款第25条第2項に規定する単品スライド条項に基づく請負代金額の変更を請求することができる。

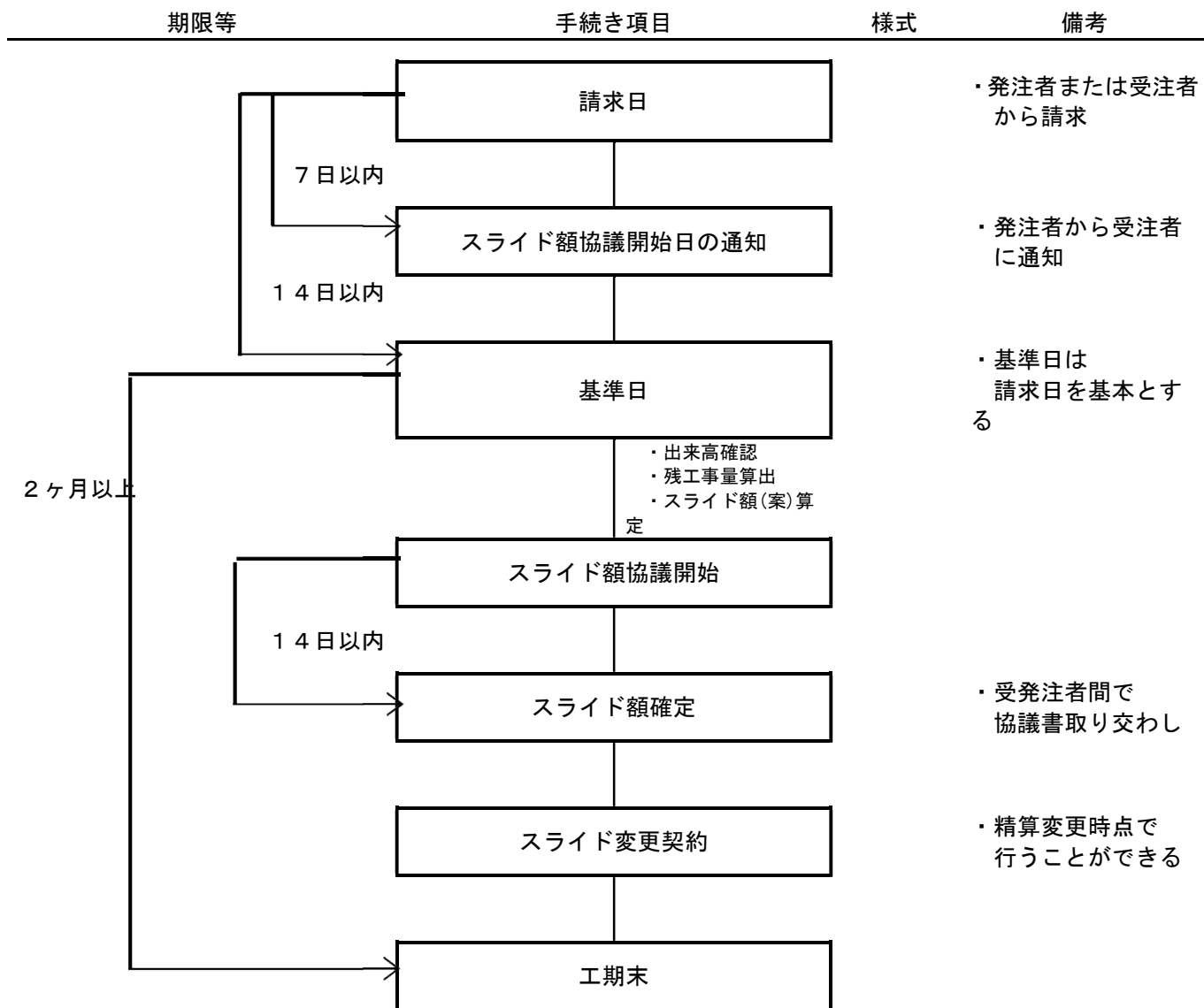
・約款第25条第2項に規定するインフレスライド条項は、材料価格を含む物価や賃金等の変動に伴う価格水準全般の変動について対応するものであることから、単品スライド条項の適用となっている材料を含めて、まずインフレスライド条項によるスライド額を算出することが基本となる。その上で、インフレスライド条項との重複を防止するため、インフレスライド条項の対象とした数量については、変動前の単価をインフレスライド条項の適用日の単価として単品スライド条項のスライド額を算出することとなる。

・また、インフレスライド条項と単品スライド条項とをそれぞれ単独で考えれば、前者においては残工事費の1%、後者においては対象工事費の1%、それぞれで受注者の負担が生じることとなる。両スライドのルールをそのままそれぞれ適用した場合には、受注者にリスクを重複して負担させることになり、結果的にリスク負担が過大なものとなる。

・このような過大なリスク負担を回避するため、単品スライド条項のみが適用される期間においては当該期間の工事費の1%を受注者の負担とするが、インフレスライド条項と単品スライド条項が併用されている期間においては、インフレスライド条項の適用により受注者が負担する残工事費の1%をもって既に単品スライド条項に係るリスク負担がなされているとの考え方に基づき、単品スライド条項に係る1%分の負担を求めないこととした。

・さらに、単品スライド条項に係る対象工事費は基本的には最終的な全体工事費であり、インフレスライド条項と併用した場合の対象工事費はインフレスライド条項に係るスライド額を含む変更後の総価となる。

## インフレスライド条項 実施フロー





# ス ラ イ ド 調 書

工 事 名	
請 負 代 金 額	円 (消費税含まず)
	円 (消費税含む)
設 計 書 金 額	円 (消費税含まず)
	円 (消費税含む)
工 期	自 平成 年 月 日
	至 平成 年 月 日
基 準 日	平成 年 月 日
出 来 高 額	円 (税抜き)
残 工 事 額 (P <sub>1</sub> )	円 (税抜き)
変 更 残 工 事 額 (P <sub>2</sub> )	円 (税抜き)

※増額スライド用

○○○○○工事に係る

貸金等の変動に基づく請負代金額計算書

請負代金額	出来高額	$P_1$	$P_2$

$$\begin{aligned} \text{スライド額 (S)} &= ( P_2 - P_1 ) - P_1 \times 1/100 \\ &= ( \quad - \quad ) - \quad \times 1/100 \\ &= \quad - \quad \\ &= \end{aligned}$$

(但し、 $P_1 < P_2$ )

- $P_1$  : 請負代金額から出来形部分に相応する請負代金額を控除した額  
 $P_2$  : 変動後(基準日)の貸金等を基礎として算出した $P_1$ に相当する額

$$\begin{aligned} \text{スライド額} & \\ \text{(税込み)} &= \quad \times \text{消費税及び地方消費税率} \\ &= \end{aligned}$$

※減額スライド用

○○○○○工事に係る

貸金等の変動に基づく請負代金額計算書

請負代金額	出来高額	$P_1$	$P_2$

$$\begin{aligned} \text{スライド額 (S)} &= ( P_2 - P_1 ) + P_1 \times 1/100 \\ &= ( \quad - \quad ) + \quad \times 1/100 \\ &= \quad + \\ &= \end{aligned}$$

(但し、 $P_1 > P_2$ )

$P_1$  : 請負代金額から出来形部分に相応する請負代金額を控除した額

$P_2$  : 変動後(基準日)の貸金等を基礎として算出した $P_1$ に相当する額

$$\begin{aligned} \text{スライド額} & \\ \text{(税込み)} &= \quad \times \text{消費税及び地方消費税率} \\ &= \end{aligned}$$